

指導と評価の年間計画・評価規準の作成のための参考資料

## 8 芸術 美術

< 目次 >

- 1 「評価規準」作成のための手引（美術） P 1 ~ 4
- 2 「指導と評価の年間計画」（美術） P 5
- 3 「題材ごとの指導と評価の計画」（美術） P 6 ~ 9

## 「評価規準」作成のための手引 高等学校芸術科（美術）

教科の目標、評価の観点及びその趣旨

### 1 教科の目標

芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、豊かな情操を養う。

### 2 評価の観点及びその趣旨

関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の工夫	鑑賞の能力
芸術を愛好し、芸術文化を尊重するとともに、個性を生かして意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとする。	感性を働かせて芸術のよさや美しさを感じ取り、創造的に表現を工夫する。	創造的な芸術表現をするために、必要な技能を身に付けている。	芸術を幅広く理解し、そのよさや美しさを深く味わう。

科目目標、科目の評価の観点の趣旨（美術）

### 1 美術の目標

美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。

### 2 評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の工夫	鑑賞の能力
美術を愛好し、意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動に取り組み、その喜びを味わい、創造的な表現と鑑賞の能力を身に付けようとする。	感性や想像力を働かせて自然や身の回りの造形、美術作品などのよさや美しさを感じ取り、主題を生成し、表現を構想する。	創造的な表現をするために、表現材料や表現形式を選択し、効果的に生かす技能を身に付けている。	美術について、作者、生活や自然との関連、日本の美術の歴史などを理解し、美術作品などのよさや美しさを味わう。

学習指導要領の内容、内容のまとめりごとの評価規準

国立教育政策研究所教育課程研究センターが示した資料は、美術においては、学習指導要領の内容の「A表現（1）絵画・彫刻」「A表現（2）デザイン」「A表現（3）映像メディア表現」及び「B鑑賞」を内容のまとめりごととして、これらごとに評価規準を示している。

そしてまた、「内容のまとめりごとの評価規準」A表現を【関心・意欲・態度】【芸術的な感受や表現の工夫】【創造的な表現の技能】の3観点から示し、B鑑賞の評価規準を【関心・意欲・態度】【鑑賞の能力】の2観点から示している。

しかし、表現の領域であっても、指導の過程で、鑑賞指導を位置付け、表現に生かすことなど、表現と鑑賞は表裏一体のところがある。したがって、1題材の評価規準を設定するときには、表現の領域と鑑賞の領域とのかかわりを十分踏まえる必要がある。

### 1 A表現（1）絵画・彫刻

#### （1）学習指導要領の内容

- ア 感じ取ったこと、自己の考え、夢や想像などを基にした主題の生成
- イ 表現形式の選択と創造的な表現の構想
- ウ デッサン、色彩、構成、材料や用具の生かし方などの技能
- エ 意図に応じた多様な表現方法の工夫

(2) 絵画・彫刻の評価規準

関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能
絵画や彫刻の多様な表現方法に関心を持ち、意欲的に自己の考えや夢、感動などを基に表現を構想し、技能を生かして主体的に取り組み、その喜びや楽しさを味わい、美術を愛好していこうとする。	感性や想像力を働かせて対象のよさや美しさ、自己の心的世界などをとらえ、表現形式や方法、材料や用具などについての体験的理解を基に、自己の表現意図に合った方法を創意工夫し、表現を構想する。	造形的諸要素を理解し、デッサンや色彩の表し方を工夫し、構成を考え、材料や用具を効果的に活用するなど、主題の意図を生かして創造的に表現する。

2 A表現(2)デザイン

(1) 学習指導要領の内容

- ア 機能と美しさや楽しさを考えた主題の生成
- イ 造形要素の理解と創造的な表現の構想
- ウ 表現形式の選択、色彩、材料や用具の生かし方などの技能
- エ 意図に応じた多様な表現方法の工夫

(2) デザインの評価規準

関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能
デザインの多様な表現方法に関心を持ち、美的デザイン行動を基盤として、自分らしい感性や美的感覚を生かして生活を楽しむものや美しく彩るものを考え、意欲的、主体的に表現活動に取り組み、心豊かな生活を創造していこうとする。	デザインの目的を実現するために、造形要素を理解し、それらを効果的に生かし、デザインのもつ温かみや楽しさが日常生活に潤いを与えていることに気付き、心豊かな生活を創造するための表現を工夫する。	表現形式や技法を主体的に選択し、色彩、材料や用具の生かし方などの技能を働かせ、意図に応じた多様な表現方法を工夫する。

3 A表現(3)映像メディア表現

(1) 学習指導要領の内容

- ア 映像メディアの特質を生かした心豊かな主題の生成
- イ 視覚的な伝達効果を考えた表現の構想
- ウ 色光、機材等の基本的な使い方と活用
- エ 意図に応じた表現方法や編集の工夫

(2) 映像メディア表現の評価規準

関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能
自らが感じ取ったことや、見いだした価値を他者に伝えることに意欲的・主体的に取り組み、映像メディア表現の喜びを味わおうとする。	感性や想像力を働かせて自然や身の回りの造形、美術作品などのよさや美しさを感じ取り、豊かに発想し、映像メディアそれぞれの特性について理解し、意図に応じた表現の方法を工夫する。	映像メディア機材の、基本的な使い方や生かし方の技能を高め、表現意図に合う表現方法を構想し、創造的な表現を工夫する。

4 B鑑賞

(1) 学習指導要領の内容

- ア 美術作品のよさや美しさ
- イ 作者の心情や意図と表現の工夫
- ウ 生活や自然と美術との関連
- エ 日本の美術の歴史と表現の特質
- オ 映像メディア表現の特質と交流

(2) 鑑賞の評価規準

関心・意欲・態度	鑑賞の能力
自然や美術作品、生活の中の造形、文化遺産などを主体的、積極的に鑑賞しようとし、生活と美術との関連を密接にし、日常生活の中で美術に親しみ愛好するとともに、世界と美術とのかわりについて関心を持ち、国際協調の精神を培い、日本の文化や伝統を尊重しようとする。	美術作品をさまざまな観点から鑑賞し、それらのよさや美しさを深く味わい、作者の生き方や世界観、夢や感動などを感受、理解し、自己の考えを述べるとともに、生活と美術との関連、日本の美術の歴史について理解を深め、映像メディア表現を活用し、発信・交流する。

題材の評価規準作成の手順

内容 美術 A 表現(1) 絵画、B 鑑賞 第1学年

題材名 「自画像」(全14時間)

目標 自己の内面を見つめた自画像の主題を生成し、多様な表現方法の特質や効果を生かして「心の世界」を表現することを通して、表現することのよさや楽しさを味わう。

<手順1> 【題材に関連する学習内容の評価規準を明確にする】

国立教育政策研究所教育課程研究センターが示した「内容のまとまりごとの評価規準」を基に題材に該当する学習内容の評価規準を取り上げる。

本事例は、学習内容が、A 表現(1) 絵画・彫刻及び B 鑑賞であることから「内容のまとまりごとの評価規準」は下記ようになる。

< 「A 表現(1) 絵画・彫刻」及び「B 鑑賞」の評価規準 >

	A 表現(1)			B 鑑賞	
	関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	関心・意欲・態度	鑑賞の能力
内容のまとまりごとの評価規準	絵画・彫刻の多様な表現方法に関心を持ち、意欲的に自己の考えや夢、感動などを基に表現を構想し、技能を生かして主体的に表現に取り組み、その喜びや楽しさを味わい、美術を愛好していこうとする。	感性や想像力を働かせて対象のよさや美しさ、自己の心的世界などをとらえ、表現形式や方法、材料や用具などについての体験的理解を基に、自己の表現意図に合った方法を創意工夫し、表現を構想する。	造形的諸要素を理解し、デッサンや色彩の表し方を工夫し、構成を考え、材料や用具を効果的に活用するなど、主題の意図を生かして創造的に表現する。	自然や美術作品、生活の中の造形、文化遺産などを主体的、積極的に鑑賞しようとし、生活と美術との関連を密接にし、日常生活の中で美術に親しみ愛好するとともに、世界と美術とのかわりについて関心を持ち、国際協調の精神を培い、日本の文化や伝統を尊重しようとする。	美術作品を様々な観点から鑑賞し、それらのよさや美しさを深く味わい、作者の生き方や世界観、夢や感動などを感受、理解し、自己の考え方を述べるとともに、生活と美術との関連、日本の美術の歴史についての理解を深め、映像メディア表現を活用し、発信・交流する。

<手順2> 【題材の評価規準を設定する】

- ・手順1で選択した評価規準を基にして、「題材における評価規準」を設定する。
- 年間指導計画に位置付けようとしている「各題材」の評価規準を作成する。

題材における評価規準の内容は、目標に準拠した評価を実施することを考慮し、題材目標に応じた内容になる。

	関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
題材にお評価規準	自らの内面に働きかけ、表現したい主題を生成し、試行錯誤や創意工夫によって、効果的に表現しようとしている。	多様な表現形式の特質を理解し、効果的な表現方法を工夫して自己の追究したい主題の構想を練る。	形や色彩、構成の美しさや表現効果を考え、技法や用具を、表現の意図に応じて活用している。	作品の造形的な特徴や表現の工夫をとらえ、自他の特性や個性について理解を深める。

<手順3>【単位時間における具体の評価規準を作成する】

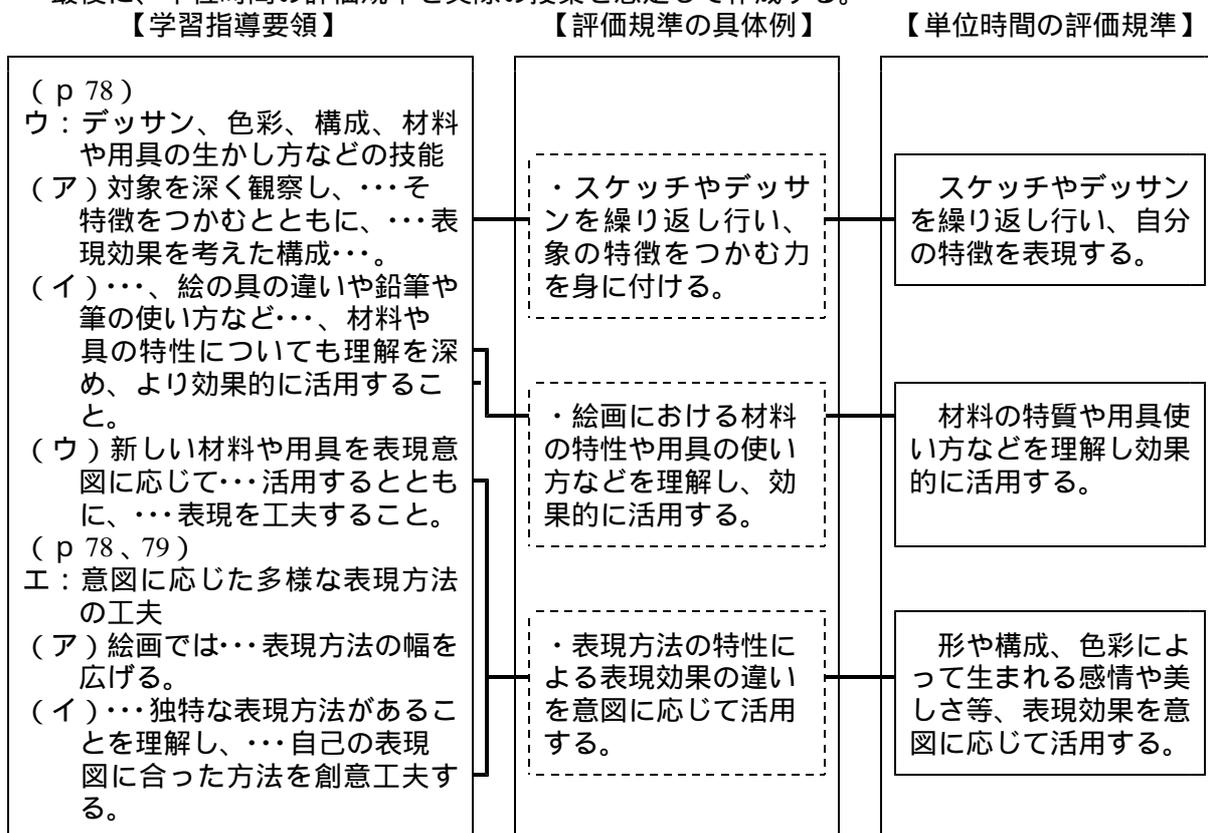
・手順1、2と進めてきた評価規準を基に「単位時間における具体の評価規準」を設定する。  
 ここでは高等学校学習指導要領解説「芸術編」に記述されている内容を題材にあてはめ、全ての生徒に身に付けさせたい一つの具体的な評価規準を作成する。  
 作成については、国立教育政策研究所教育課程研究センターが提示した資料の「評価規準の具体例」を参考に具体的に作成する。

作成される一つ一つの評価規準は、単位時間において中心となる評価規準であり、授業においてそのまま使用できる具体的なものになることが大切である。

下記に、観点別学習状況の「創造的な表現の技能」の観点における単位時間の評価規準の例を示す。

初めに題材を通してすべての生徒に身に付けさせたい力を学習指導要領の記述そのまま洗い出します。次に、その内容に対応している評価規準を国立教育政策研究所教育課程研究センターが示している評価規準の具体例から明確にする。このとき、題材に該当するもののみ用いる。

最後に、単位時間の評価規準を実際の授業を想定して作成する。



## 指導と評価の年間計画

教科(科目)	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
芸術(美術)	2単位	第1学年	美術	

到達目標 【学習指導要領】	芸術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。
到達目標に向けての具体的な取組 【指導上の留意点】	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の経験や能力、興味・関心などをふまえ、創造的な表現と鑑賞の基礎的・基本的な能力を伸ばす。</li> <li>表現における選択の幅を広げるとともに、自己実現を目指し表現を追究していく主体的な態度を育てる。</li> <li>美術と生活との関連が実感できるような題材の設定をする。</li> <li>日本や諸外国の文化を理解し尊重していく態度を育てる鑑賞の活動を大切にする。</li> </ul>

月	題 材	時間	指導内容	評価規準	評価の方法
一 学 期	オリエンテーション	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書や図録、生徒作品を鑑賞する。</li> <li>学習の目標をもたせ、学習意欲を引き出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>美術の学習内容に関心を持ち、制作や鑑賞への憧れや期待をもっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習ノート</li> </ul>
	生き生きと描く (絵画)	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>植物や動物、昆虫など身近なものを素材に、生き生きと表現する。</li> <li>筆、パス、水彩絵の具など描画材の特質を生かして描く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象を深く観察し、対象の特徴をつかんで表現している。</li> <li>描画材の特質を生かした表現をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作品</li> <li>観察</li> </ul>
	CDジャケットのデザイン (デザイン)	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽から受ける特徴的な美しさや感動をデザインすることを理解する。</li> <li>何度も曲を聴きながら、その曲をもっている雰囲気や印象、自己の感動を色彩の機能や感情、形態の性質、その関連を考えながら、構想を練る。</li> <li>色や形の構成の美しさを感じながら曲のイメージや自分の感動を表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CDジャケットの目的や条件をふまえ、自分なりの主題を生成している。</li> <li>曲のもつイメージを、リズムやバランス、変化と統一等の美的秩序や構成要素を感じ取り構想する。</li> <li>材料や用具の生かし方を工夫し、意図に合う表現方法を創意工夫する。</li> <li>デザインと生活とのかわりやよさを感じ取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観察</li> <li>アイデアスケッチ</li> <li>作品</li> <li>自己評価</li> <li>相互評価</li> </ul>
	素材の発見と立体表現 (彫刻)	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しい材料の活用による造形表現の作品を鑑賞し、造形意識を拡大する。</li> <li>風、光、動といったテーマをもち、自己の感情や造形の工夫を大切にしたいアイデアスケッチを行い、構想を練る。</li> <li>素材や材料、用具の特性を生かした表現、技法を工夫して表現する。</li> <li>テーマや表現の工夫などを交流し、表現のよさや美しさを鑑賞する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>立体造形における表現に関心を持ち、思いを広げている。</li> <li>自分のテーマを基に素材の特徴を生かした構成や表現の構想を練る。</li> <li>素材の特性を生かした独創的な表現を工夫する。</li> <li>素材のよさや表現の美しさ、発想の面白さなどを味わう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観察</li> <li>作品</li> <li>自己評価</li> <li>相互評価</li> </ul>
二 学 期	ポスター&チケットデザイン (映像メディア表現)	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近にある映像メディア表現に触れ、その効果や可能性について理解する。</li> <li>学校行事を中心に、伝えたい内容を決め、効果的な表現の構想を練る。</li> <li>写真の取り込みと画像処理、キャッチコピーのデザインやレイアウトなどコンピュータの機能を生かして、表現する。</li> <li>目的に応じて印刷し実際に活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>映像メディアの可能性や必要性、社会に果たす役割等に関心を持ち、視覚伝達の機能を生かして意欲的に表現しようとする。</li> <li>写真・ビデオ・コンピュータ等による表現の特性や機能を考え、自分の表現意図に応じて美しく効果的な表現の構想をする。</li> <li>映像メディア機材を意図に応じて活用し、伝えたい内容を効果的に美しく表現する。</li> <li>伝達・交流のための映像メディア表現のよさや美しさ等を感じ取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観察</li> <li>作品</li> <li>自己評価</li> <li>相互評価</li> </ul>
	日本の美術 (鑑賞)	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の作家について調べる。</li> <li>作品の紹介、作家の紹介の仕方を工夫する。</li> <li>調べた作家や作品について紹介し日本美術のよさを味わう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の伝統的な美術の表現の特質に関心を持ち、味わおうとする。</li> <li>日本の美術作品の特徴をとらえ、効果的な表現の工夫を感じ取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鑑賞ノート</li> <li>レポート</li> <li>自己評価</li> <li>相互評価</li> </ul>
	自画像 (絵画)	14	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な自画像の作品を鑑賞し、主題や表現の効果を感じ取る。</li> <li>表現形式や技法の効果を生かし、主題に合った表現を構想する。</li> <li>自分の主題に合った彩色や筆使い、描画材を選択し効果的に表現をする。</li> <li>自分や仲間の表現の違いやよさを味わう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己の内面を見つめた主題を生成し、創意工夫をこらし、効果的に表現しようとしている。</li> <li>多様な表現形式の特質を理解し、効果的な表現方法を工夫して追究したい主題の構想を練る。</li> <li>形や色彩、構成の美しさや表現効果を考え、技法や用具を、表現の意図に応じて活用している。</li> <li>作品の造形的特徴や表現の工夫をとらえ、自他の特性や個性について理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観察</li> <li>作品</li> <li>自己評価</li> <li>相互評価</li> </ul>
三 学 期	校内の総合的な環境造形 (総合表現)	16	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループを編成し、校域内、校舎内の美的環境面における問題点を分析する。</li> <li>環境改善の方策を考える。</li> <li>環境を明るく美しく、心豊かにする絵画、モニュメント、絵文字、デザインなどの制作をする。</li> <li>個人またはグループで制作したものを実際に展示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活と美術との関わりを理解し、積極的に環境に働きかけようとする。</li> <li>主題や環境と表現との関わりを踏まえ、表現形式や素材の生かし方について構想を練る。</li> <li>感覚や技能を総合的に生かし、環境や内容に適した効果的な表現を工夫する。</li> <li>環境に働きかける美術の役割や効果について感じ取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観察</li> <li>作品</li> <li>自己評価</li> <li>相互評価</li> </ul>

## 題材ごとの指導と評価の計画（美術）

- 1 題材名 「自画像」 A表現（1）絵画 B鑑賞
- 2 題材の目標
  - ・自己の内面を見つめた自画像の主題を生成し、多様な表現方法の特質や効果を生かして「心の世界」を表現することを通して、表現することのよさや楽しさを味わうことができる。
- 3 題材の評価規準

	A表現（1） 絵画・彫刻			B表現	
	関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	関心・意欲・態度	鑑賞の能力
内容のごまごまのま評り価規準	<p>絵画・彫刻の多様な表現方法に関心をもち、意欲的に自己の考えや夢、感動などを基に表現を構想し、技能を生かして主体的に表現に取り組み、その喜びや楽しさを味わい、美術を愛好していこうとする。</p>	<p>感性や想像力を働かせて対象のよさや美しさ、自己の心的世界などをとらえ、表現形式や方法、材料や用具などについての体験的理解を基に、自己の表現意図に合った方法を創意工夫し、表現を構想する。</p>	<p>造形的諸要素を理解し、デッサンや色彩の表し方を工夫し、構成を考え、材料や用具を効果的に活用するなど、主題の意図を生かして創造的に表現する。</p>	<p>自然や美術作品、生活の中の造形、文化遺産などを主体的、積極的に鑑賞しようとし、生活と美術との関連を密接にし日常生活の中で美術に親しみ愛好するとともに、世界と美術とのかわりについて関心をもち、国際協調の精神を培い、日本の文化や伝統を尊重しようとする。</p>	<p>美術作品を様々な観点から鑑賞し、それらのよさや美しさを深く味わい、作者の生き方や世界観、夢や感動などを感受、理解し、自己の考え方を述べるとともに、生活と美術との関連、日本の美術の歴史についての理解を深め、映像メディア表現を活用し、発信・交流する。</p>

	a：関心・意欲・態度	b：芸術的な感受や表現の工夫	c：創造的な表現の技能	d：鑑賞の能力
題材に評お価規準	<p>自らの内面に働きかけ、表現したい主題を生成し、試行錯誤や創意工夫によって、効果的に表現しようとしている。</p>	<p>多様な表現形式の特質を理解し、効果的な表現方法を工夫して自己の追究したい主題の構想を練る。</p>	<p>形や色彩、構成の美しさや表現効果を考え、技法や用具を、表現の意図に応じて活用している。</p>	<p>作品の造形的な特徴や表現の工夫をとらえ、自他の特性や個性について理解を深める。</p>
単位時間に具お体けのる評り価規準	<p>自分らしさや生き方等自分の内面を見つめ、表現したい主題を生成している。 形や色彩、材料や用具を生かして、表現方法を工夫しようとしている。 試行錯誤や創意工夫によって、新たな発見や課題を確認するなど、自己追究をしている。</p>	<p>多様な表現形式の特質の理解に基づき、効果的な表現方法を工夫し、追究したい主題の構想を練る。 表現の過程で、主題を意識し自己の構想を確かめ、表現を工夫する。</p>	<p>スケッチやデッサンを繰り返し行い、自分の特徴を表現する。 材料の特質や用具の使い方などを理解し、効果的に活用する。 形や構成、色彩によって生まれる感情や美しさ等、表現効果を意図に応じて活用する。</p>	<p>作品の表現意図や効果的な表現の工夫を感じ取る。 生徒作品について、感じ方、表現の仕方の違いやよさなどに気付き、自他の特性や個性について理解を深める。</p>

4 題材の指導と評価の計画（全14時間）

時	ねらい	学 習 活 動	評価規準	評価方法	指導・援助
1 ・ 2	多様な作家の作品を鑑賞して作者の内面と表現との関わりを理解し、自画像制作への意欲をもつ。	<p>様々な表現形式の自画像を鑑賞し、作者の思いや表現の効果を感じ取る。</p> <p>参考作品を鑑賞し、自画像のよさを味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴッホ、モディリアーニ等の自画像の中から、好きな作品について鑑賞する。</li> <li>・鑑賞の視点にしたがってよさをノートにまとめる。個々に感じ取ったことを交流し、それぞれの作品の特徴やよさを味わう。自分の内面を見つめ、表現したい自分の思いを決める。</li> </ul>	<p>&lt; d - &gt; 作品の表現意図や効果的な表現の工夫を感じ取る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習ノート</li> <li>・発言の様子</li> </ul>	<p>作家や作品にかかわる資料を準備し鑑賞を深める。鑑賞の視点を示し、主題と造形要素とを結びつける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人物の表情</li> <li>・色彩やタッチ</li> <li>・構成</li> <li>・描画材</li> </ul> <p>交流を位置付け、個々の鑑賞を深める。</p>
3 ・ 4	表現の仕方や技法などさまざまな表現の仕方を模索し、自分の主題に合った表現の仕方を構想する。	<p>主題に合う効果的な表現の構想を練る。</p> <p>資料から構成や彩色、技法の効果を感じ取る。自分の主題に合うよう、効果的な表現方法を追求する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな角度から自分を見つめる。(スケッチする)</li> <li>・いろいろな技法を試し、効果的な表現を探る。</li> </ul> <p>学習ノートに、自分の思いと構想をまとめる。</p>	<p>&lt; b - &gt; 多様な表現形式の特質の理解に基づき、効果的な表現方法を工夫し、追究したい主題の構想を練る。</p> <p>&lt; a - &gt; 自分らしさや生き方等自分の内面を見つめ、表現したい主題を生成している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スケッチ</li> <li>・観察</li> <li>・学習ノート</li> </ul>	<p>構成や技法にかかわる資料を提示し、より効果的な構成の工夫ができるようにする。デジタルカメラ等により、自分のいろいろな角度からとらえられるようにする。技法が試せるよう用具や場所の準備をする。</p>
5 ・ 6	主題の構想を基に、中心となる自分や背景など効果的な構成を工夫して描く。	<p>構想をもとに、じっくり自分を観察し自分らしさを表現する。</p> <p>効果的な構成を考え、中心になる自分を描く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分をじっくりと観察し、主題に合う表情や構図を工夫して丁寧に表現する。主題をより効果的に表現するために、必要なものや背景を描く。</li> <li>・人物の構成、シルエット、象徴的な背景など</li> </ul>	<p>&lt; c - &gt; スケッチやデッサンを繰り返し行い、自分の特徴を表現する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品</li> <li>・制作態度</li> </ul>	<p>学習ノートにより前時の個々の主題や構想を把握し、個別指導をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・顔や体の表情</li> <li>・プロポーション、アングル、全体の構図等</li> </ul>

<p>7 ・ 8 ・ 9 ・ 10 ・ 11 ・ 12 ・ 13</p>	<p>主題を効果的に表現するため、色調や配色、混色、筆の使い方などを工夫して描く。</p>	<p>主題を効果的に表現するため、彩色の仕方を工夫する。</p> <p>主題に基づいて全体の色調を考える。 ・色の感情による効果を理解し、自分の主題に合った色調や配色を決める。</p> <p>混色や筆使い、用具の扱いを工夫する。 ・表現意図に合わせて用具を選び、その特性を生かして効果的に活用する。</p> <p>主題に合わせて、表現に適した描画材を選び、その効果を生かす。</p> <p>毎時間の学習を振り返り、主題の表現のための成果や課題を書き留め、次時の課題を明確にしておく。</p> <p>毎時間の授業の最初に、課題を確認し、必要な資料を見たり、仲間の表現からヒントを得たりする。</p>	<p>&lt; c - &gt; 形や色彩によって生まれる感情や美しさなど表現効果を意図に応じて活用する。</p> <p>&lt; a &gt; 形や色彩、材料や用具を生かして、表現方法を工夫しようとしている。</p> <p>&lt; c - &gt; 材料の特質や用具の使い方を理解し効果的に活用する。</p> <p>&lt; a &gt; 試行錯誤や創意工夫によって、新たな発見や課題を確認するなど、自己追究をしている。</p> <p>&lt; b &gt; 表現の過程で、主題を意識し自己の構想を確かめ、表現を工夫する。</p>	<p>・作品 ・観察 ・自己評価</p> <p>・作品 ・観察 ・自己評価</p> <p>・作品</p> <p>・自己評価</p> <p>・観察 ・自己評価 ・相互評価 ・学習ノート</p>	<p>資料 ・画面の色調による雰囲気や効果の違い。</p> <p>資料 ・混色・重色、筆のタッチによる表現の効果。 絵の具の基礎的な使い方や効果、彩色の手順について個別に指導する。 自己評価や観察を通して追究の様子を把握し、個々の課題に応えられるよう具体的な資料を提示するなどしてアドバイスする。 個々の課題解決のための資料を提示する。 生徒作品の交流の場を位置付け、相互評価ができるようにする。</p>
<p>14</p>	<p>他者の作品を鑑賞し、よさや美しさを感じ取る。</p>	<p>自分や仲間の作品の表現の違いやよさを味わう</p> <p>互いの作品を見合い、よい点、学べる点を発表する。自分の表現について、自己評価し、工夫やよさについてまとめる。</p>	<p>&lt; d - &gt; 生徒作品について、感じ方、表現の仕方の違いやよさなどに気付き、自他の特性や個性について理解を深める。</p>	<p>発表・学習ノート</p>	<p>互いの作品を真剣に鑑賞し、よさや美しさを積極的に出し合い、認め合えるように働きかける。</p>

5 単位時間の授業展開例

(1) 本時のねらい

多様な表現形式の特質の理解に基づき、効果的な表現方法を工夫し、自己の追求したい主題の構想を練る。

(2) 本時の位置

3 / 14時

(3) 展開案

過程	学 習 活 動	評価について	指導・援助
導 入	<p>資料作品を鑑賞し、構成にかかわる多様な表現の効果を感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人物の向きや表情による効果</li> <li>人物の表情と背景のかかわり</li> <li>複数の人物や物による構成</li> </ul> <p>本時の課題を明確に意識する。</p>	<p>興味をもって作品を鑑賞し、作者の思いや表現の効果を感じ取る。 【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発言</li> </ul>	<p>幅広い表現の可能性を感じさせるよう、多様な構成にかかわる資料の提示をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作品についての感想を交流する中で、それぞれのよさが味わえるようにする。</li> </ul>
展 開	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">主題をより効果的に表現できる構成を考えよう。</p> <p>自分のテーマや思いを効果的に表現する画面構成を、何枚もアイデアスケッチを行い追究する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな角度から自分を見つめ、スケッチを通して、中心となる自分の向きや形、表情などの構想を練る。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>主題や自分を効果的に表現するための背景や、構成のしかたを考える。</li> </ul>	<p>&lt; b - &gt; 多様な表現形式の特質の理解に基づき、効果的な表現方法を工夫し、自己の追求したい主題の構想を練る。 【芸術的な感受や表現の工夫】</p> <p>&lt; 評価の方法 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観察</li> <li>アイデアスケッチ、</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>何枚もスケッチをし、様々な構成を試みている。</li> <li>主題と結びつけた構成の効果を生かしている。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習ノート</li> <li>自己評価</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習後、課題意識や表現に対する意識等をみる。</li> </ul> </div>	<p>【Bに達しない生徒への指導】 どんな自分を表現したいのかを聞き取り、主題を明確にする。</p> <p>自分のスケッチで、表現上課題となっているところを意識させ、具体的な見方や表し方について指導する。</p> <p>自分の表情を鏡でじっくりと観察することを大切にする。</p> <p>主題を効果的に表現するための資料により、様々な方法を示し、最も適している方法を選び試してみる。</p>
ま と め	<p>個々の取組についての交流を通して、表現の幅を広げたり課題を明確にしたりする。</p> <p>学習ノートに本時の取組について評価する。</p>	<p>作品を鑑賞し、表現意図や表現方法を理解し、そのよさを味わうことができる。 【鑑賞の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習ノートに、工夫してよくなったところと課題について書く。</li> </ul>	<p>自分や仲間の作品を振り返り、よさや工夫した点を確認するとともに、次時への課題と意欲がもてるようにする。 (評価の観点の工夫)</p>